

長泉町わくわく塾・伊豆八十八霊場巡礼報告書

(この記録は、2008年1月の記録をベースに作りました)

年月日 平日＝2012年01月12日(木・晴)＝17名
休日＝2012年01月22日(日・晴)＝8名

回数 2010期・第20回、2011期・第8回

巡礼寺・順 ●第二十八番 大江院(だいこういん)

本尊・十一面観世音菩薩 山号・伊雄山 曹洞宗(最勝院・末寺)
草創 不明

- ・草創当時は密教(真言宗)で俗称・大江庵といわれ1540(天文九年)最勝院十二世・宗銀により曹洞宗に改宗、伊雄山・大江院となる。その後衰微したが、1615-24(元和年間)僧・秀天により再興される。
- ・この寺で発見され保管している、「豆国(伊豆)八十八ヶ所霊場納経帳(朱印帳)」に明治二十二年の銘があり、豆国遍路が百二十年以前から、行われていた事実が判明しました。

●第二十九番 龍豊院(りゅうほういん)

本尊・釋迦牟尼 山号・大川山 曹洞宗(最勝院・末寺)
草創 1555(弘治元年)

- ・足利時代の末期、創建で当時は真言宗であった、1596年-1615年(慶長年間)最勝院、七世僧笑山により曹洞宗に改宗する。
- ・山門右手に東伊豆町指定の天然記念物の枝垂れ桜(樹齢400年以上)がある。

●第三十番 自性院(じしょういん)

本尊・薬師如来 山号・金沢山 曹洞宗(最勝院・末寺)
草創・1504年(永正元年)

- ・室町時代に創立され、1579年(天正七年)大田道灌の末孫大田持広が、最勝院十一世、仙山長寿を招き曹洞宗に改宗する。
- ・現本堂は1872年(明治五年)に造営、1970年(昭和四十五年)に改修、鐘楼は1955年(昭和三十年)に造られる。

●第三十一番 東泉院(とうせんいん)

本尊・観世音菩薩 山号・東宮山 曹洞宗(最勝院・末寺)
草創・1494年(明応三年)

- ・本尊は役ノ小角(えんのおずね)作です。
- ・北條家、家臣の金指筑後守が、寺を建て、観音像を安置したのが始まり、後に最勝院七世笑山により、曹洞宗に改修する。
- ・本尊を造ったと言われる、「役ノ小角(えんのおずね)」とは一般に「役の行者」といわれ修験道の初祖です

距離	約2 Km+約4 Km+約5 Km+約4 Km+約6 Km=約21 Km (休日)
タイム	伊豆高原ファミリーマート発7:30—大江院8:00~8:15—龍豊院 9:10~30—自性院11:15~12:10—東泉院13:15~13: 30—新稲取トンネル—稲取地先15:00 (休日)
温泉	河津・踊り子会館=900— (団体割引)
寺経費	自性院=1000— (平・休日、昼食・休憩)
参考資料	「伊豆霊場振興会」HP

平日班は前夜の見事な雪景色を楽しみながら大江院着。休日班で先月、伊豆高原ファミリーマートで終え、大江院まで約2 Kmを歩けなかったMさんは、三島駅5:30の電車で熱海・伊東を乗り継ぎ、伊豆高原で下車して大江院に来了。

空隙個所を歩き、ここで皆と合流し—安心。このMさんの情熱に、御殿場のTさんは大感激だった。

休日班は、前述ファミリーマートから出発。ただ今回休日班は、先週悪天候で実施が一週間延期したため参加者が少なく、初めてマイカーの実施となった。この周辺は、最終地から伊豆急行が使えるので、それが可能だった。

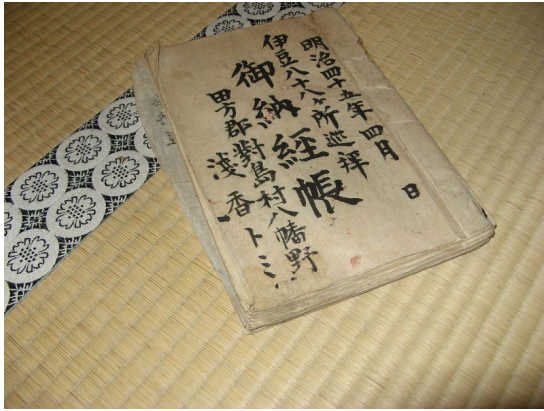


国道から田舎道に入ると「高見の椎の木」(鎌倉以前)と呼ばれる巨木があった。永年風雪に耐えた大きく立派な木だった。誰からともなく昔、「椎の実」を食ったな～、の話が飛び出た。

レモンがたわわに揺れる小道を過ぎ、二十八番札所・大江院に着いた。大体、予定通りの時間だった。まず、お寺に御朱印帳を預け、隣接する来宮神社(江戸後期)に参拝する。「鎮守の森」そのままの静けさで、苔むした石段を上り、本殿に着く。一番古い狛犬は、文久二年と刻まれていた。左手には物凄い杉の巨木が守護神の様に佇立していた。

2年前、住職の法話をいただきました。「足るを知ること。心ひとつで(人間は)鬼でも仏にも、なれるのですから、修行をして欲しい、、、」と有難いお言葉だった。

最後は、この寺に伝わる住職の御婆さんの朝香トミさんが、明治45年に巡礼した



時の現存する最古の伊豆八十八御朱帳を拝観させて貰った。

御先祖様の貴重な御朱印帳に触れ、巡礼に華を添えて貰い大変に有り難く感動した。

三島観光が販売している御朱印帳原本がこれと初めて知りました。

そして、本堂前で住職も加わり全員で記念撮影し、私達はお寺を後にする。

住職が山門でいつまでも見送って下さる姿に私は感慨を覚えた。二度三度振り返り

お辞儀をすると、お和尚様が神々しく見えました。

ここから国道を出発。歩いて10分、赤沢の白い観音様が立っている横を通過。今日はこの先で国道を離れ旧道に入る。いつもと違い車は極端に少ない。しばらくして右手に「曾我物語発祥の地」とされる「椎の木三本」があった。

さらに歩く事50分、赤沢分譲地の入口広場で休憩。トイレが無いのが困る。

龍豊院に到着。入口右手に枝垂れさくらの古木（推定樹齢400年）のつぼみが少し膨らんでいた。

龍豊院



龍豊院を出発後15分で「ぼなき石」（ぼやき石）に到着。江戸城の築城石として切りされたが重すぎて運べず放置されたままだと言う。

「ぼなき石」とは・・・

これは伊豆急の「伊豆大川」駅の近くに放置された巨石だ。1.2m角で長さ2.5メートルの長さがある。重さは相当重い。江戸城の修築工事の際には100人持ちの石が江戸城まで海路運ばれたそうだが、この石は切り出したものの重すぎて海辺まで降ろすことが出来ずに放置されたため、人夫が「ぼやいたので名付けられたそうだ。

海辺まで降ろせざとさらっと書いたが、石が放置されている場所から海岸線までは少なくとも標高差で50メートルはある。しかも、傾斜は急斜面なのだ。よくもこんなところから下まで運んでさらに船で江戸まで運んだものだと思う。一隻の船に石を二つしか積みなかったそうだから大きさも分る。

伊豆は石の産地で「伊豆石」と総称される石には城壁などに使用される溶岩を基とする安山岩系の「堅石」と温泉の浴槽などに使用されている暗緑色の火山灰を基にした凝灰岩系の「軟石」に大別される。

「ぼなき石」は当然、前者だ。東伊豆町の指定文化財になっている。

路地裏旅行者 HP「伊豆のみち」より

45分歩いて休憩。目前に源泉の白い湯気が印象的な広場であった。

相変わらずノンビリとした旧道を歩く。たまに車が来ると「懐かしい」のへらず口。大きいカーブの遥か彼方に大室山が小さかった。さらに前進。南方の山頂に風力発電用の風車が見える自性院に到着。境内に沢山のミカンの実をつけた木が数十本あった。



太田道灌の孫が寺の建立に貢献したとのこと。平日・休日とも本堂で昼食・休憩でした。両日とも寒い日で、寺で用意してくれた3台のストーブが有り難かった。感謝・深謝です。ここの寺は、本当に感じがよい寺でした。

自性院を出て25分で135号線に出る。前方の洋上に三原山の頂に雪をかぶった大島がすごく近くに見える。ここから東泉院に向かう。

東泉院の本堂に掲げられた大きな銀杏の一枚板に彫られた十二支と七福神が見事。これは近くに住む方が製作したそうだ。

また、本堂右手の壁に掲げられた戦没者の写真が41あり内1人は看護婦さんであった。合掌。

本尊の正観音菩薩像は役の小角の作とのこと。



2年振りに訪ねた東泉院だった。5年前独身で美しい娘さんは比丘尼（びくに）を目指していた。3年前、訪れた時は結婚して九州に赴いたと話していた。そして今年訪れたら、剃髪して副住職をしていた。随分痩せて眼鏡を掛けて印象が変わっていた。子供さんも二人いるそうだ。

この寺は、曹洞宗だから修行は永平寺かと聞いたら、女性の場合は、名古屋の専門の寺で行うとのこと。ちなみに名古屋は女性僧侶が多いそうです。

また、伊豆の寺で剃髪をしている女性はもう一人いるそうです。記念写真には、気軽に応じてくれました。

さて、巡礼はここから稲取に向かう。過去2回はここから国道をしばらく歩き、黒根トンネルに達するが、このトンネルが昔の狭いトンネルで歩道がない。とても危険で歩ける状態ではない。そこで過去2回は、トンネルを抜ける所までバス乗車をしていた。「伊豆巡礼完全歩き」を目指している我々にとってここは、喉にひっかかった魚の骨だった。

ここを何とかしたい。裏山に防災用の道路がある。住職に聞いたら寺の墓の脇を通って行けると地図までコピーしてくれた。有り難い。

墓の脇の急登をあえぎ、新稲取トンネルを抜けて、別荘地を降りると稲取高校がある。その先は国道だった。



伊豆急行で帰る

休日時、稲取は雛祭りで盛り上がっていた。講師は、1800円の陶器製の雛人形を買ってしまった。(笑)

ほか、郵便局で魚を売っていたり、冷やかすのは中々楽しい。休日班は電車で伊豆高原駅まで伊豆急行で帰る。670円は高かったが、雰囲気の良い電車で楽しかった。平日班は、河津で早咲きの桜を見学して帰りました。見事な桜でした。



早咲きの河津桜



平日班 東泉院



休日班 東泉院

